

令和七年度

岡山白陵中学校入学試験問題

国語

受験番号	
------	--

注意

- 一、時間は五〇分で一〇〇点満点です。
- 二、問題用紙と解答用紙の両方に受験番号を記入しなさい。
- 三、開始の合図があつたら、まず問題が一ページから一九ページまで順になっているかどうかを確かめなさい。
- 四、解答は解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 五、字数制限のあるものについては、句読点も一字に数えます。

次の各問いに答えなさい。

問1 次の①～⑩の文中にある——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 大きな地震の発生からしばらくたつが、カセツ住宅への入居は進んでいない。
- ② 豪雨災害から身を守るために、「うちはまだ大丈夫」というカシンは禁物だ。
- ③ パリオリンピック総合馬術団体のメンバーは平均年齢四十歳を越す自分たちを「シヨロウジャパン」と称した。
- ④ メジャーリーグでは日本人選手がゼンジン未到の大記録をうち立てている。
- ⑤ 政権与党の総裁選で勝利した新総裁は、直ちにソカクに入った。
- ⑥ あこがれの大学のエンカクを調べてみると、ますます入学したくなった。
- ⑦ 文化祭の出し物を何にするかで言い争ってシユウシユウがつかなくなった。
- ⑧ オーケストラの岡山コウエンは、九月・十月の二か月間限定だ。
- ⑨ 一回表で十点もの大量失点をしてしまい、ベンチにはナカばあきらめムードが漂っていた。
- ⑩ どんな競技にも驚きと感動があるオリンピックは、まさにスジ書きのないドラマだ。

問2 次のア～コの文中にある——線部のカタカナ語について、使い方が**適当でないもの**を三つ選び、記号で答えなさい。

ア インターネットは社会のグローバル化に有効な手段だ。

イ 高校生活最後の試合では、一人ひとりが最高のモチベーションを見せた。

ウ 個別に持っている資料や情報をシェアすることで、チーム全体の成績が上がる。

エ このレストランはユニークな料理を提供している。

オ そのアニメでは、主要な物語の進行とは別に、個々の登場人物のエピソードが描かれて^{えが}いる。

カ どんな人でも使いやすいデザインをユニバーサルデザインという。

キ 就職活動では自分を知ってもらうためにさまざまな角度からアピールすることが必要とされる。

ク 私が思わず口走ってしまった一言で親友がメンタルになった。

ケ 彼が提出する資料はいつもクオリティーが高い。

コ 海外で働きたいという思いが、英語を学ぶ上でのプライバシーになっている。

問3 次の四字熟語の□にはすべて漢数字が入る。当てはまる数字をすべて足すといくつになるか、漢数字で答えなさい。

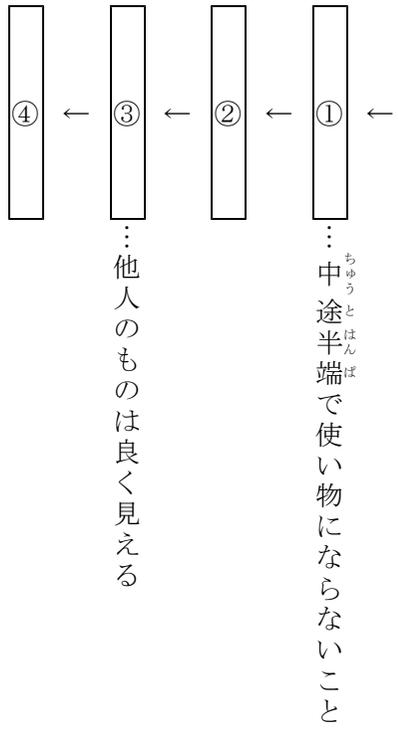
□寒□温

□方美人

□里霧中

問4 ことわざや慣用句でしりとりをしていたところ、「青菜に塩」から始まって、①から始まって、④で最後に「ん」がついて終わってしまった。空欄の下に示した意味を参考に、① ④に入ることわざを後のア～シの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

青菜に塩



- | | | | | | | | |
|---|--------------------------------|---|--|---|--------------------------------|---|--------------------------------|
| ア | 白羽の矢が立つ | イ | 月とすっぽん | ウ | 石の上にも三年 | エ | 帯に短したすきに長し <small>なが</small> |
| オ | 隣の芝生は青い <small>となりのしほふ</small> | カ | 朱に交われば赤くなる <small>しゆにまわればあかくなる</small> | キ | 一寸先は闇 <small>いちゆんさきはやみ</small> | ク | 馬の耳に念仏 <small>うまのみにねぶつ</small> |
| ケ | 紅一点 | コ | 釈迦に説法 <small>しやくかにかいぼう</small> | サ | 失敗は成功のもと | シ | 鬼に金棒 <small>おににきんぼう</small> |

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、本文上部の番号は行番号です。

母と祖母（ハルさん）との三人で佐渡島に暮らす小学六年生の芽衣（わたし）は、東京に遊びに行った際に聖中央学を見学してから、聖中央大学へあこがれをもつようになる。自宅に帰ってきてから勉強に励む芽衣だが、そのせいで友だちの話題についていけず、仲たがいをしてしまった。落ち込んだ芽衣は家族に何も事情を言わず学校を休むが、翌日にはなんとか気持ちを整理して登校した。芽衣は意を決して、聖中央大学に行きたいという夢を友だちに話し、その結果うまく仲直りすることができた。

帰宅すると、わたしは母さんとハルさんに、なぜ学校を休んでしまったのかを説明した。

そして、母さんとハルさんの目を見て、きちんと伝えた。

「わたし、本当は聖中央大学を受験したいって思ってる。だから勉強も本気でがんばり始めたの」

「芽衣、前に聖中央大学の話をしたことがあっただろう？ やっぱり本当は行きたいと思っとったんだね」

5 ハルさんが小さい手でわたしの頭を何度もなでた。①その手のあたたかさに申し訳なくなる。

母さんが引き出しからパンフレットを取り出してきた。

パンフレットには「がんばる若者を応援します！」と書かれている。

「これって……？」

10 「佐渡の高校を卒業して佐渡の観光事業に携わっている起業家さんが、基金を立ち上げてくれとるみたいなんだよ。将来の夢をしっかりと持って進学を希望する高校生に、返済不要の奨学金を給付してもらえる制度なんだって」

「母さん、調べてくれたの？」

「このまえ、芽衣が奨学金のことまで話に出したから。気になって自分で調べてみたり、お店のお客さんにそれとなく聞いてみたりしたんだよ。そしたら、金子さんがこのパンフレットと、それからこんなものまで持ってきてくれたのよ」

15 母さんが分厚い冊子も手渡してきた。「全国の大学受験案内」と書かれている。

「金子のおじいちゃんか？」

金子のおじいちゃん、前に「芽衣ちゃんは女の子なんだし、こっちで就職して、年ごろになれば結婚すればいい」なんていつてたのに、どうしたんだらう。

20 「金子さんちも一人娘のお嬢さんかいたんだけど、島外の大学に行つて、こっちには戻つてこないままお嫁にいつてしまつて、奥さんまで亡くなつてさみしかったみたいでねえ。つい芽衣ちゃんに余計なことをいつて悪かつたつていつつたよ」

ハルさんがしみじみとした感じでいつた。

② 金子のおじいちゃん、そうだったんだ……。

25 「島に住んどると大変なこともあるけど、こういう基金を立ち上げて島の子どもを応援しようとしてくれる人もいるんだねえ」

母さんがパンフレットを見ながらつぶやいた。

「でもね、選ばれるのは毎年三名程度。『学業に優れていて、大学に行つてからもレポートを毎月提出すること』つて書いてあるよ」

30 母さんが募集要項を指さす。三名なんて、すごく A だ。でも、スタートラインに立てるかもしれないと思うだけで、胸が高鳴る。

わたしが要項を読みこんでいると、母さんがいつた。

「昔とちがつて、今は経済的な理由で進学をあきらめないですむように、国のほうでも給付してくれる奨学金の制度があるんだね」

「えつ、そんな制度があるの？」

35 「ああ。もちろん、いろんな条件はあるけれど、ちゃんと今の制度のことを調べずに、おどかしてばかりで悪かつたよ」

母さんがわたしの目をまっすぐ見つめた。

「……実はね、わたしもちよつと考えていたんだよ。相田商店あいだの仕事はハルさんにまかせて、正社員で働こうかなって。正社員は土日も出勤しないといけないからね」

40 それから母さんは、今働いているスーパールの正社員が定年退職することになり、母さんに声がかかっていて、ハルさんに相談していたことを教えてくれた。

「でも、決心がついた。正社員の話、引き受けようと思う」

母さんがにっこり笑った。

「そんな……。母さん、お店の仕事ができなくなったらさみしいんじゃないの？」

45 「そりゃさみしいけどね」

母さんは両手で顔をごしごしとこすった。

「わたしにとっちゃ、芽衣が夢をあきらめざるほうがよくぼどさみしいことだからね。これからもっとバリバリ稼かせごうと思つとるの。もし奨学金がもらえたら、そりやありがたいけど、もしもらえなかったとしても、東京でひとり暮らしをすることになっても芽衣の夢を応援できるようにね」

50 母さんがわたしの肩かたにポンポンと手を置くと、インターフォンが鳴った。

「はあい、あら貴子たかこ、どうしたの？ えっ、おしよゆを切らしてた？ ちよつと待って。お店から持っていくから」

母さんは障子戸を開けると、お店からおしよゆを一本とり、また戻るとお菓子かしの袋ふくろを持ってきた。

55 「これは新くんへのお礼。いつも芽衣がお世話になつとるからね」

バタバタと裏の玄関げんかんに行く母さんの足音に、ハルさんと顔を見合わせて笑った。

「母さん、あんな調子で本当にお店の仕事をやめられるのかな？」

ハルさんが静かにいった。

「本当はね、相田商店をたたもうと思つとったんだよ。わたしも目や足が悪くなったから、そろそろ B かなってね。でもこずえががんばるっていうから、わたしももうひとがんばりすることにしたらよ」

胸がつまり、言葉が出なかった。

60 ハルさんも、母さんも、わたしの知らないところで、わたしの気づかないところで、いろんなことを考えてくれて

いたんだ。③でも、本当にこれでいいの？

わたしの手をとると、ハルさんがいった。

65 「わたしもね、実は都会の大学に行ってみたかったんだよ。でも女子に勉強は必要ないって親からいわれて、高校を卒業してすぐに働くしかなかった。そのあとおじいちゃんと結婚して、民宿をやって、相田商店をやって悔いはないけど、芽衣が学びたい気持ちを応援したいんだ。それは母さんも同じだと思うよ」

ハルさんはふふつと笑った。

「植物みたいに自分の生まれた場所に根っこを伸ばすのもいいけど、人間は自由なんだから、自分の足で自分の行きたい場所に向かいたいよね」

自分の足で、自分の行きたい場所に……。

70 わたしも、向かえるかもしれないんだ。

もうこれ以上は進めないと思っていた道に、④ぼつと明かりが見えた気がした。

薄暗い森の中で、陽の当たる場所に出たような。

すぐく明るいわけじゃないし、どこまでもまっすぐ見通せる大きな道に出たわけじゃない。でも、自分でも歩いていける道を照らしてくれる光が。

75 自分の部屋に戻ると、「全国の大学受験案内」を机の上に置いた。

黄色い表紙に「学びたいことを見つけよう」と大きく書かれている。

冊子をめくると、「学部から見つけた将来の夢」というカラーのページから始まっていた。

いろんな大学の構内の様子や学部の内容を、写真つきで学生が紹介している。

—— 学生が衛星を開発？ 宇宙とつながる技術を学ぼう！ K 大学 工学部

80 —— 授業の7割が英語！ 世界で働く力をはぐくむ R 大学 国際経営学科

大学や学部ってこんなにたくさんあるの？

佐渡には大学がないし、ハルさんも母さんも大学には行っていない。だからうちで話題になることもなかったし、今までわたしが知っていたのは聖央を含めてせいぜい五校くらいだった。聖央大学を見学するまで、大学生を見たこ

とすらなかったのだ。

85 ページをめくっていると、ある大学の「観光学部」という文字が目飛びこんできた。

「えっ、こんな学部もあるんだ」

コメントをしている女子学生は離島出身で、過疎化している島の観光業を盛り上げるためにこの学部で学びたいと思いい、受験をしたらしい。

90 — 観光ビジネスのことから、地域の魅力を掘り起こすこと、学べば学ぶほど、やりたいことや夢が広がります。そんなことが勉強できるの？ もしかして、佐渡みたいな離島の観光業や、古い町の活用方法とかも勉強できるってこと……？

⑤ 胸に小さい花が咲いたような感じがした。

聖央って決めつけなくても、いろんな道があるのかな。

もっと、大学のことを知りたい。どんなことが勉強できるのか知りたい。

わたしは夢中になってページをめくり続けた。

(高田由紀子『グリーンデイズ』による)

(注1) 貴子——芽衣とは親戚関係であり、後に出てくる「新くん」の母親。

(注2) これは新くんへのお礼——「新くん」は以前東京に住んでいたが、佐渡に引っ越して来ており、芽衣に勉強を教えてくれている。

問1

A、Bに入る言葉として最も適当なものを次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A ア 長蛇ちようだの列 イ 狭せまき門もん ウ 青田あおた刈がり エ 有頂うちようてん天

B ア 潮時しおどき イ 黄昏たそがれどき時 ウ 山場 エ 修羅しゆら場ば

問2

線部①「その手のあたたかさに申し訳なくなる」とありますが、芽衣が申し訳ないと思ったのはなぜですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア ハルさんがどのように考えているかについては耳を傾かたむけることなく、学校生活や聖央大学のことに関する自分の思いを支離滅裂しりめつれつに話し続けてしまったから。

イ 学校に休まず通ってほしいというハルさんの思いには全く気づくことなく、自分の事情だけで学校を休むという身勝手な行動をとってしまったから。

ウ 自分に深い愛情を注いでくれていているハルさんに対して、学校を休んだことや聖央大学のことについてしっかり説明をせず心配をかけてしまったから。

エ 自分の将来についてハルさんは気にかけてくれていたのに、今まで聖央大学へのあこがれを一切言わずにかたくなな態度をとり続けてしまっていたから。

問3

――線部②「金子のおじいちゃん、そうだったんだ……」とありますが、ここでの芽衣はどのようなことに気づいているのですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 金子のおじいちゃんは、女の子が島外の大学に行ったり島外で就職したりすること自体に反対していたのではなく、芽衣が島の良さを理解することなく島外に出ようとすることを寂しく思っていたということ。

イ 金子のおじいちゃんは、女の子は地元で就職や結婚をすべきだという考えを押し付けたのではなく、島に戻らない自分の娘と芽衣とが重なり、寂しい思いから地元に残るよう言ってしまったということ。

ウ 金子のおじいちゃんは、女の子が地元から出ていくことに対して批判的な言い方をしていたが、それは芽衣個人に向かって言うのではなく、世の中の若者全てについて批判していたということ。

エ 金子のおじいちゃんは、直接会ったときには芽衣を突き放すような態度をとっていたがそれは本心ではなく、芽衣がいなくて相手のことを心配し気づかう優しい面を持っていたということ。

問4

――線部③「でも、本当にこれでいいの？」とありますが、ここでの芽衣はどのような心情ですか。指示された字数で、次の I、II にあてはまる言葉をそれぞれ考えて入れ、説明を完成させなさい。

母親やハルさんの言葉を聞き、

I 四十字以内

気持ちで胸がいっぱいになるが、その一方で、

II 四十字以内

気持ちにもならざるをえない心情。

問5

——線部④「ぼつと明かりが見えた気がした」とありますが、ここでの「明かり」とはどのようなものか、とを言っているのですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 聖央大学を目指すことができるという希望。
- イ 東京の大学に進学するための学費を得る方法。
- ウ あこがれの聖央大学に合格できるという確信。
- エ 大学進学を断念した家族が自分に託^{たく}した思い。

問6

——線部⑤「胸に小さい花が咲いたような感じがした」とありますが、ここでの芽衣の心情を五十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問7 本文の表現や内容に関する説明として**適当でないもの**を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「両手で顔をごしごしとこすった」(46行目)、「バタバタと裏の玄関に行く母さんの足音」(54行目)の部分では、擬態語や擬音語を用いることで、芽衣の母親の動きや思いを読者が想像しやすくなるように表現している。
- イ 「わたしの肩にポンポンと手を置くと」(50行目)、「わたしの手をとると」(62行目)の部分では、「手」について描くことを通して、芽衣を後押ししようとする家族の思いを表現している。
- ウ 「薄暗い森の中」、「陽の当たる場所」(72行目)の部分では、比喩表現を用いることで、芽衣の気持ちが大きく変化していることを読者が実感をもって読み取れるように描いている。
- エ 「全国の大学受験案内」は「分厚い冊子」と表現されており(15行目)、自分の部屋でその「分厚い冊子」を夢中でめくる芽衣の描写(95行目)は、大きな困難に一人で立ち向かおうとする姿を象徴している。



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

学生の時に将棋を指していましたが、アマチュア強豪には□に衣着せぬ物言いをする人をしばしば見かけました。私が所属した大学の将棋部でも、一般の会話では聞いたことがないような辛辣な言葉が飛び交っていて、私もたびたびそういった辛辣な罵倒の対象となり、悔しい思いをしなかつたと言えは嘘になりますが、私はそんな将棋指したことが、結構好きです。

①将棋の世界は「優しい嘘」が通用しない、というか、有意義に機能しない場所です。詰みがある局面では、誰がどう言ってもそれは詰んでいるのであり、それを読めなかつた人は弱いのです。それ以上でもそれ以下でもない。将棋に勝った人が負けた人に向かって「指そうと思つたら、隣のコマに指が当たつて動いて、それがたまたま好手になりました」とか、「全部、良い手を指されたのに、私の勝ちになつていて、一体どうなつてるんでしょうね」とか、歯の浮くようなことを言つてみても、嘘がバレバレで軽蔑されるだけです。たとえいくら辛くとも、本当のことを言わなければ、負けた原因がわからず、相手も自分も将棋が強くなるらない。だから将棋指しは知らず知らずのうちに、本当のことを言つてしまふ癖がついています。

しかし、そういった将棋指しの習い癖は、②「外の世界」に出ると一定の頻度で問題を引き起こします。それは私の人生において時に起こつてきたことであり、一部の将棋部の先輩後輩諸氏を見ても容易に想像できることです。本当のことを言い過ぎると、ある種の社会不適応者という烙印を押されてしまうのです。それは、この世には本当のことを言われると困る人が結構たくさんいるし、一面的な「本当」を主張するだけでは解決しない問題も、現実にはとても多く存在しているからです。

③中国の有名な故事成語に「鹿を指して馬と為す」という言葉があります。これは秦の始皇帝亡き後、権勢を誇つた宦官の趙高に関する逸話です。趙高は幼き二世皇帝の胡亥を傀儡にして帝国の実権を握っていましたが、ある

時胡亥に「珍しい馬がおります」と鹿を献上しました。胡亥が「これは鹿ではないか」と問うと、趙高は「いいえ、これは珍しい馬でございます。皆はどう思うか？」と周囲の家臣に尋ねました。これは群臣の自分への忠誠心を試すために行った趙高の策略で、鹿だと答えた家臣は、軒並み捕らえられて処刑されたそうです。一説には、これが馬鹿の語源となったとも言われており、鹿を馬というのはバカなことというふうにも、そんな状況がバカげているというふうにも解釈できる話です。

現代ではさすがに処刑されることはないですが、本当のことを言うことで、自分が属する組織が困ったことになったり、関連する人との人間関係が悪くなったり、あるいは自分の評価が下がったりというような状況は、古今東西ごくごく普通に発生します。だから、多くの人がそのバカな状況をどうにかこうにかやり過ごしています。言う必要のない本当のことは黙っていたり、わからないとか、知らないことにしたり、あるいは開き直って嘘を言うこともあるでしょう。ある国の総理大臣は国会で118回も嘘の答弁を行い、その理由を「秘書が本当のことを知らせなかったから」と説明しました。私はこの総理大臣が少なくとも119回の嘘をついたのではないかと思いますが、本当のことが言えない、もしくはとても言いにくい状況というものは、このように現実に頻繁に起こります。

「嘘をついてはいけません」。物心ついた時から、私たちはそう教わり続けます。幼稚園でも、小学校でも、中学校でも、そして大人になっても。しかし、この世は「嘘」、少なくとも「本当でないこと」に満ち溢れています。その中には鹿を馬というような自分を守る嘘もあるでしょうが、必ずしもそういうものばかりでもありません。灰谷健次郎さんの『少女の器』という小説に、主人公の絢と上野くんという少年のこんな会話が出てきますが、私はこのくだりをとっても印象深く覚えています。

「その章子さんという人ははじめ、おまえのおやじが好きやってんやろ。結婚してもらわれへんので、よその男のそこへ行ったと。そやろ」

そういう復習の仕方に絢はとまどったが、一応、

「そう」

とこたえておく。

「そうしたけど、うじうじするから、よう考えたら、やっぱりおまえのおやじが好きやったというわけや。なんとかならへんかというてしっぱ巻いて帰ってくる人間にカッコええのがおるか。前と違う章子さんだったとおまえいうけど、そんなん当たり前や」

惚れた弱みというのをおまえ知らへんからなあ、と少年はいった。

「頭のええ人間ちゆうのはやっぱり冷たいワ。ドブに落ちた犬見て、あの犬汚い、汚い、いうたら犬かて立つ瀬ないワ。おまえ、なんで、おれを睨むねん」

緋は唇をかんでいる。

世の中には、それが本当であつても言わなくていいこと、本当のことを言うことで事態が良くなること、そんなこともたくさんあります。「優しい嘘」が人としての生きる知恵であり、必要悪として存在していることは紛れもない事実です。そこで④「いや、だってあの犬、汚いやんか」と言ってしまうのが、将棋指しだったりするのですが、「優しい嘘」というものが、本当に悪いことなのか、どこまでが許されるのか、私にはよくわかりません。

将棋の世界で「優しい嘘」が有効に機能しないのは、結果が短期間に出る、よし悪しが明白な世界だからだと思えます。勝ちに導く手が好手で、負けにしよう手は悪手です。しかし、現実の世界はそんな単純にはできていない。ドブに落ちて泥にまみれる経験をすることが、その後の人生の成功につながっていくようなことはよくある話です。ドブに落ちたら負け、ではないのです。だから、ドブに落ちたことを責め立てるより、その傷を癒し、心も体も回復させていく「優しい嘘」の方が長期的な、好手、となることだっているのです。

また、嘘はいけないと言っても、鹿を鹿と言えば首をはねられることがわかつている状況で「鹿！」と言うのは、実際馬鹿なことではないのかと、思わぬこともあります。映画やドラマであれば、そういう馬鹿な正直者を助けてくれるヒーローが出てきたり、その人がヒーローに変身できたりするものですが、現実にはそんなことは起こりません。⑤物言えば唇寒し秋の風とは、蓋し名言です。

では一体、⑥なぜ私たちは嘘をつくことがいけないと教わり続けているのでしょうか？その本当の問題は、安易に嘘をつく生き方、その生きる姿勢にあるのではないかと、私は思います。生きていると、いろんな苦しいことがやってきます。志望校に入るために勉強することや試合に勝つためのスポーツの練習もそうでしょう。与えられたノルマをこなすことや、何かの仕事を成し遂げることなど、苦しい思いをしなければ達成できないことが多くあります。もちろん中には、そうやって頑張ってみても越えられない困難もあるでしょう。結果が失敗に終わること自体は決して悪いことだと思いませんが、私がここで問題にしているのは、そういった困難や苦しさと真剣に向き合わず、安易に逃げてしまうことです。それは心理的な癖のようなものになり、人として成長するための大切な基盤を蝕んでいきます。

嘘をつくという行為は、そういう困難や苦しきから逃げてしまうことと根が同じだと思います。嘘をつけば、目の前の問題がとりあえずその場では解決します。でもそんなやり方が当たり前になってしまえば、人はいざという時に頑張れなくなってしまふ。いつも何かを誤魔化して生きることに慣れてしまふのです。そういった精神の在り方が、その人の人生全体を何か偽物にしてしまふ。嘘にはそういう魔力があり、そこに墮してしまふことを戒めるために、聖書も、コーランも、先生も、親も、口をそろえて「嘘をついてはいけない」と言うのです。

(中屋敷均『わからない世界と向き合うために』による)

(注1) 宦官——宮廷で皇帝に仕える役人の一種。

(注2) 傀儡にして——思いのままに操って。

問3

——線部③「中国の有名な故事成語に『鹿を指して馬と為す』という言葉があります」とありますが、この故事成語はどういう意味だと述べていますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 誰にでもわかる嘘を平気でつくこと。
- イ 自分の考えを権力によって押し通すこと。
- ウ 好感を得るために珍しい品を献上すること。
- エ 自分の周囲の者たちをひどく見下すこと。

問4

——線部④「『いや、だってあの犬、汚いやんか』と言ってしまふのが、将棋指しだったりする」とありますが、筆者はここで何を言おうとしているのですか。指示された字数で、次の□にあてはまる言葉を本文中から抜き出して入れ、説明を完成させなさい。

将棋指しはいつも□十字以内□ということ。

問5

――線部⑤「物言えば唇寒し秋の風」とありますが、この句の意味を考えると、ここではどういふことを言おうとしていますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 嘘をつくことで、相手の傷を癒し、長期的に見ると相手の心も体も回復させていくというすぐれた嘘の効能があるので、積極的に嘘をつくべきだということ。

イ 本当のことを言わなければ、相手に欠点を自覚させることは難しいので、厳しいものの言い方になるのは覚悟の上で、はっきりと相手に伝えるべきだということ。

ウ たとえそれが本当のことであつたとしても、うっかり口をすべらせてしまうと良くないことが起こることがあるので、気をつけるべきだということ。

エ 日本では従来、ものをあまり言わぬことを美德としてきたので、分かつていても何も言わないことで相手との関係を円滑えんかつにするべきだということ。

問6

――線部⑥「なぜ私たちは嘘をつくことがいけないと教わり続けているのでしょうか」とありますが、筆者は、なぜ「嘘をつくことがいけない」と考えているのですか。指示された字数で、次の I には本文中の言葉を抜き出して入れ、 II にはあてはまる言葉を考えて入れ、説明を完成させなさい。

嘘をつくことは、 I 二十五字 ことと同じであり、それが当たり前になつてくると、

II 三十字以内 から。